中華人民共和国　陝西省大巴(ダーパー)山地を行く

── オオヒメシロチョウを求めて ──

札幌市　伊　藤　邦　昭

昨年2004年5月8日より5月19日まで、陝西省の南部大巴(ダーパー)山地へヒメシロチョウ属の調査に行った。

西安の栎陵区にある西北農林科技大学昆虫博物館館長の周教授に挨拶し、これからの調査の行程を説明し、同伴する刘教授とチャーターした車に乗り、周至を通って佛坪(フウピン)着(18：00)。ここ佛坪には大熊猫(パンダ)が生息しており、鄧小平により日本の上野動物園に贈られたのがここに生息していたパンダである。現在中国に生息しているパンダは1,110頭から1,590頭までに増加しているが、よほど山奥深くに立ち入らないと目撃されることはない。明日通過する洋县(ヨウシエン)にはトキの生息地があり、野生種は270羽までに回復している。この佛坪の地は2002年の6月に4時間に480 mmという異常な豪雨があり、この狭い谷間の両岸に並んでたつ家屋を押し流し約200人が死亡した。現在、この渓谷の両側はきれいに整地されて「周至保护区宣教中心」という立派な博物館と標本室が建っている（写真1）。

私はオオヒメシロチョウの食草である、メギ科のある種を探しているのだが、なかなか見つからない。

5月11日、陝西省汉中にある陝西理工学院動植物標本室にあるヒメシロチョウ属の標本を調べに行く。刘教授は前もってこの大学の友人である張彦杰(チャンヤンチェ)教授(50歳)に連絡をしてあったが、その時になって、刘教授は私に小声で日本語を話さないようにといわれた。標本は隣の部屋で私が調べ、ラベルや形態を同定し、私の分布図に記入するのであるがその間、刘教授と張教授は隣の部屋で話し合いをしていた。標本は *Leptidea morsei* 14♂8♀、*L. amurensis* 5♂、*L. gigantea* 1♀を同定した。

このように中国の内陸部に入ると、排日感情が強く、大巴山地を越えれば、そこは四川省であり、昨年日本がサッカーの試合をした重庆市(チョンチン)である。

中国の各地の林業試験場、動物研究所、大学の標本室、博物館の標本室を調査するとき、肌で感じることは、

1）これまでにヨーロッパの各地や日本によって多くの動植物が無断で自国から持ちだされ、研究、命名されてきたこと。特に日本によって侵略され、被害をこうむったことなどで学問の上で日本に先を越されたくないという思いがある。

2）1965年から約10年間にわたった動乱(文化大革命)のため、学問のある分野が遅れていること。

3）大学教員の給料が少なく専門分野の本や文献が手に入りずらく、また研究分野の予算が不足している。(刘教授の給料は

1カ月約25,000円、周教授のような上級で約30,000円、助手で7～8,000円ぐらいであり、退職した教授で約14,000円である。)

4）調べる標本の状態が非常に悪い。中国の標本箱は紙製で表面はガラスであるが、日本で使用しているドイツ型の大きいものはなく、A4型の紙の大きさのものがほとんどである。それに側面は隙間があって、予算不足のため長い間防虫剤が入っておらず、中には標本が壊滅状態のものもあり、大学にある多くの標本は学生が実習用に採集し展翅したものが多く状態がよくない。日本の標本はどうしてあのように立派にきちんと展翅されているかと学生によく聞かれるが、まず展翅板なるものが不足していて、ポリエステルの板に逆三角形の溝を彫って、この中にお湯で軟化した胴体を入れ展翅するので、当然足が少しとれてしまうが一向に気にしない。私は大学院生に足は分類に大切なのだからと教え、日本から展翅板を贈った。

5）中国全土に飛散する黄土の埃が防塵設備のない窓の隙間より入り込んで、標本戸棚の中のガラスは埃が積もっており、雑巾で一箱づつ拭かなければならない。

6）中国は縦社会であり上司の許可がでなければなにもできない。しかも上司や役人を接待することに精力を使い、地方の林業所の職員などは木や草の名前もよく覚えていない。また、私たちが大巴山地に入る2日前に、2人の日本人が無許可で大巴山中で蝶を採集していて、公安に捕まり、地元の新聞に名前が載ったため、日本人に対して風当たりが強いのである。これは報奨金が手にできる農民が公安に密告したためである。

その後、オオヒメシロチョウの食草である、あるメギ科の植物を探して汉中から留坝を通って庙台子より囲口石の少し手前まで刘教授と私は公安のパトカーの先導で海抜1,450mの地点まで行ったが、当地には普通の *Berberis potaninii*（少齿小檗）しか見つからなかった。公安の車の先導で採集に行くなんて、日本では考えられないことである（写真2）。

5月12日、汉中の宝麒大酒店のロビーに8時に集合。朝食後、地元の営林署の要請によって、天台山頂付近の松に最近立ち枯れが多くなり、その原因と防治のため森林害虫の専門家である刘教授に依頼されたのである。このあたりは海抜1,550mキャンプ地になっており、松の木々の間にバンガローがあって、現在はあまり使用されていない。刘教授は松が枯れた原因をルーペを使って調査していたが、カミキリムシの一種が原因と考えられた。付近にはクサフジがたくさん生えており（写真3）、飛んでいる蝶は *Pieris rapae*、*P. melete*、*Neptis* sp.、*Colias fieldi* などしか見られず、*Leptidea morsei* は見られなかったが、3年前この天台山の麓のスズ鉱山の付近でクサフジに産卵するエゾヒメシロチョウを採集している。昼食にはこの地方で捕られたイノシシ、クロクマ、ウサギ、ハトの肉がでたが、これらの動物はこの地方では保護動物で、一般の人々は猟ができない。こういうところ

が不思議である。

天台山を午後1時20分に出発し、山道を4時間40分かけて黎坪（リーピン）林場に到着した。ここの場長はまだ若く汉中に2号さんがいて昨日の夕食時に同伴で出席していた。周、刘教授の教え子の李軍（リーチョイン）さんである。夕食は午後7時30分から8時30分まで。イノシシ、野鶏の肉、野生の亀のスープ、近くの川で採れた小魚の揚げたもの、アンズの実などが出された。夕食が終わって、招待所にもどりシャワーを浴びるが、日本ではシャワー室が小さな個室になっていて飛沫が周囲に飛散しないようになっているが、なぜかタイル張の8畳ぐらいの部屋の隅に、なんの囲いもなくシャワーがあって、使用中にお湯が飛び散るのにはまいった。21時15分シャワーが終わって体を拭いていると突然、強烈な閃光が走り、大音響の雷が大木を引き裂かれたような音がきこえ、真暗闇となり、手探りでベッドに潜り込んだ。ここは海抜1,100 m、黎坪では1年間の降水量は1,000 mm～1,100 mmで雪は12月で20cmぐらい積もるそうである。

5月13日、黎坪林場の朝は小雨が降っている。8時30分から朝食、このあたりにメギ科の植物があるかと聞いてみるとあるという。小雨の中を部下の職員がメギ科を採りに山に入り、しばらくするとそのメギを採ってきた。見ると小歯小檗であった。標高がもう少し高くなくては目当てのオオヒメシロチョウの食草のメギは見つからない。

お世話になった職員たちと写真を撮り（写真4）、9時10分出発。昨夜の雨のため、あたりの草葉は濡れていて蝶の姿は見られない。途中の小さな橋の近くの岩の側面に鮮やかな朱色の杜鵑（小叶杜鵑（ショウヤトウチュアン））：*Rhododendron simsii* が美しい（写真5、6）。また、鎮巴（テインパ）へ行く途中には *Cornus kousa*（四照花（スウトウホワ））：日本ではヤマボウシといわれるミズキ科の花が咲いていた（写真7）。

大巴山地の中で最高峰は2,300 mであるが、山また山の行程で、それが長くこんなところに人が住んでいるという所が多い。写真8は、鎮巴の街。

陝西省鎮巴县森防站の站長、王安平が蝶がたくさん生息しているという渓谷があるという鎮巴县清水乡向家坪へ案内してくれたが時期が悪いのかモンシロチョウしか飛んでいない。今年はどこに行っても蝶の姿は少なく不思議だった。

この地方の農家のまわりに植えてある竹は5年毎に花が咲いて枯れてしまい、いたる所でこれが見られるが法律で切ることはできないという。農家の畑にはジャガイモ、トウモロコシ、稲が植えられていて、ナタネの黄色の花が美しい。

宁陝县三星宾館、午前11時着。午後1時より刘教授、林学院実習所がある火地塘（ホーチータン）へ行く。実習林の中に入り、オオヒメシロチョウの食樹であるメギ科のある種を探がしたが見つからなかった。林学院の実習所（写真9）で行われる学生の実習は毎年6月と9月に行われ、日本産のカラマツ（落叶松（ロウイヤソン））：*Larix leptolepis* がこのあたり一帯の山に植林されている。日本と異なることは秦岭山地はほとんど花崗岩で構成されており表面の土壌は薄く、岩の裂け目や窪地が

多くある土地に植えられている。西安に行く前にガソリンを補給する。中国ではガソリンは山の中でも街の中でもほとんど値段が変わらない。1リットル3.8元～4元＝52円ぐらい。途中、陝西宁陝にある雷生輝（レイシェンフイ）氏が経営している「蝴蝶収蔵館」に立ち寄る。ここは2001年5月に来てヒメシロチョウ属の標本を調べたことがあった。雷氏は今年、シナヒメギフチョウ：*Luehdorfia chinensis* を飼育していた。

5月18日、午後2時30分、人口約800万人の西安に無事到着した。全行程の距離は2,898 kmであった。

いつも同行し、お世話になる西北林学院昆虫教室主任刘銘沕教授に感謝いたしたい。

（中華人民共和国西北農林科技大学昆虫博物館特別研究員）

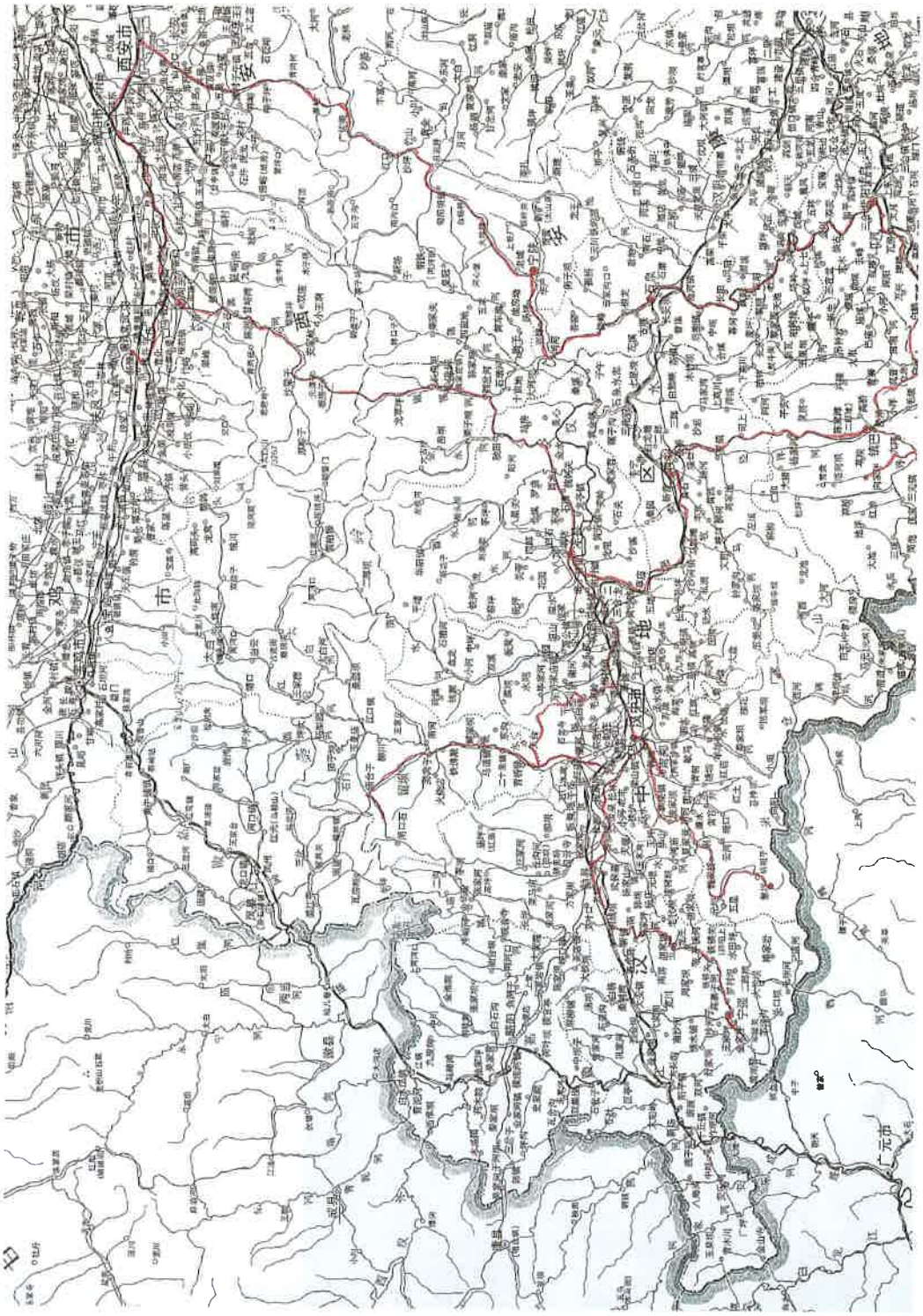

図1．大巴山地周辺の地図（中国地図出版社編制出版使用）

写真１．博物館前にて（右、刘教授、左、伊藤邦昭）

写真２．公安の車で採集に行く

写真３．エゾヒメシロチョウの食草クサフジが広く生育している

▲
写真 5．杜鵑（小叶杜鵑）
：*Rhododendron simsii* の花

◀写真 4．黎坪林場前

写真 6．杜鵑の花▶

写真８．鎮巴の街

写真７．四照花　*Cornus kousa*（日本名、ヤマボウシ）

写真９．林学院の実習所